

1 はじめに

平成 30 年度の我が国の経済は、夏季に相次いだ自然災害により、一時的に押し下げられる状況もありましたが、企業収益が過去最高を記録する中で設備投資の増加や、雇用・所得環境の改善による個人消費の持ち直しが続くなど、好循環が着実に回り緩やかな回復が続きました。

こうした中、本市では、第六次総合計画に基づくまちづくりがスタートし、「暮らしやすさと幸せをつなぐまち かすがい」の実現に向け、保育施設の整備支援や保育士の処遇改善を始めとする保育環境の整備、小中学校のトイレ洋式化や小学校における ICT 教育の推進を始めとする教育環境の改善などの「子育て環境の充実」、ふれあい農業公園や朝宮公園の整備、JR 春日井駅の周辺整備などの「賑わいの創出」、雨水調整池やポンプ場整備による浸水対策や地域を基盤とする包括的な支援体制を強化するための基幹型地域包括支援センターの設置などの「安全・安心の確保のための拠点整備」など、本市のさらなる魅力の創出を目指し各種施策に取り組みました。

歳入では、法人市民税が減収となったものの、個人所得や納税義務者の増加などによる個人市民税の増加や固定資産税の増加などにより市税収入が過去最高となったほか、経済情勢の影響などにより地方消費税交付金が増加するなどしたことから、前年度に引き続き財政調整基金からの繰り入れを行うことなく施策実施に必要な財源を確保することができました。

これらの結果、平成 30 年度は一般会計決算において約 17.8 億円の実質収支黒字となりました。

そのほか、第 3 次中期財政計画に基づく財政運営もスタートし、初年度は増加が見込まれていた市債残高については、前年度と同水準を維持し、財政指標については、将来負担比率、実質公債費比率ともに前年度から大きく改善するなど、目標の達成に向け順調なスタートを切っています。